

大学発新産業創出プログラム 社会還元加速プログラム(SCORE)
事後評価結果通知

課題番号	STSC30007
研究開発課題名:	音声明瞭化技術の事業化検証のための音声強調条件決定システムの開発
研究代表者(所属・役職・氏名)	九州大学大学院 主幹教授 中島 祥好

1. ビジネスモデル仮説検証の目的

日本は世界で最も少子高齢化が進んだ国であり、高齢者が増えることによって、老人性難聴者が増えるという課題がある。老人性難聴が進行すると認知症になるリスクが増えることが確認されている。九州大学が保有する音声明瞭化技術により、老人性難聴によって聴きとりがなくなる高周波数領域を低周波数領域へ圧縮することによって、高齢者に音を届ける。高齢者に音声によるインプットを増やすことは、アルツハイマー病、うつ病の発症率抑制にも効果がある。本計画は、高齢者が知的な生活習慣や良好なコミュニケーションを維持することで、高齢者の社会参加や健康寿命を延ばすことに貢献する。

2. ビジネスモデル仮説検証の概要

高齢者の難聴を補完するスピーカーが注目を集めている。小型であればY社の指向性スピーカー、中型であればS社の指向性スピーカーなどが注目を集めている。しかし、いずれもハードウェアで特殊な形状を作る必要があるため高コストにならざるをえない。本提案(スピーカーにソフトウェアとしてインストールする)は、ソフトウェアを用いた音声伝達機器にもインストールすることを可能とし、音声信号そのものをユニバーサルデザインに従って提供できる。また、スピーカーの指向性について工夫を加え、それに音声加工技術、新しい手法の聴力検査を組み合わせることにより、新しい事業価値を創造することができる。

3. 総合所見

チームの活発な活動により、BtoBtoC のビジネスモデルを明確にし、提携先候補とのネットワークを着実に構築した点を評価する。引き続き、事業化に向けた活動の継続を期待する。

以上